

部門	管理番号	設問	重症分類	技術分類	回答者数	必要時間	総合負荷	責任卒年
診療所	11170	同日、上記患者に対して「腹部単純X線写真の読影診断」を行った(記録を含む)。	標準	画像診断	8	5	1.5	3
診療所	11180	同日、上記患者に対して「腸閉塞症で入院が必要であるという診断・治療方針の決定と説明」を行い、次の担当医に引き継いだ(カルテ記録、指示出しを含む)。	標準	外来診療	8	6	2	4
症例		77歳女性、既往に昭和54年脳梗塞あり、以来右片麻痺、構音障害あり。ほぼ寝たきりの状態。嚥下なし。高血圧、腰痛症。月2回全身管理のために約6年前より訪問診療を行っている。						
診療所	33020	1) 状態が落ちているので、通常診療を行った。	標準	訪問診療	7	8	1.5	4
診療所	33030	2) 更にリハ指導を行った。	標準	訪問診療	7	10	1.5	4
診療所	33040	3) 訪問看護婦への訪問入浴サービスに関する助言をした。	標準	訪問診療	7	5	1.5	4
診療所	33050	4) 家族に水分補給、食事指導も行った。	標準	訪問診療	7	5	1.5	4
診療所	33060	93歳女性、脳動脈硬化症、老年うつ病のためほぼ寝たきりの状態。月2回全身管理のため約7年前から訪問診療を行っている。室内でも頻回に転倒し食欲低下が見られる。同じ屋根の下に住む家族が診療所を訪れて入院を希望するので、施設・在宅での今後の可能性を話し合った。	標準		8	20	3	5
症例		74歳男性、脳梗塞既往でほぼ寝たきり、嚥下性肺炎を繰り返すので病院で胃瘻を作成してもらった。月2回の訪問診療を行っている。						
診療所	33080	1) 状態が落ちているので、通常診療を行った。	標準	訪問診療	7	7	2	4
診療所	33090	2) 胃瘻を管理しボタンを交換した。	標準	訪問診療	4	7.5	2	4
診療所	33091	3) 尿道バルーンを交換した。	標準	訪問診療	6	12.5	2	4
診療所	33092	4) 自宅酸素療法の確認をした。	標準	訪問診療	6	5	1.25	4
診療所	33093	80歳男性、高血圧にて通院中の患者。突然朝起床時強いめまいで立ち上がることが出来ず、妻が電話で往診を依頼。電話では発熱等感冒症状なし。午前の診療時間を終了後近付たせ往診し、診療と処置をした。	標準	訪問診療	8	20	3	4.5
診療所	33094	45歳男性、初診の患者。朝突然腹痛・吐き気あり、下痢なし。妻が電話で往診を依頼。発熱なし。	標準		7	5	2	3
診療所	33095	来院させ、自ら診察して、	標準	外来診療	8	10	2.5	3.5
診療所	33096	1) 検査はせずに、紹介病院を捜して、そこに紹介状を書いた。	標準		8	12.5	2	3
症例		77歳女性、胃癌末期の初診患者。病院主治医より在宅ターミナルケアの依頼状を持って家族が来院。在宅診療を希望される。						
診療所	35020	② 外来にて、在宅医療のシステムを説明し、ターミナルケアの計画を立てて同意を得る。	標準	訪問診療	8	20	2	5
診療所	35030	③ 訪問診療準備のため、入院中の患者を訪問前往診する。	標準	訪問診療	7	30	3	4.5
診療所	35040	④ 主治医、担当看護師とミーティングを行い、病状説明を聞き、使用中の薬剤、器具の使用法などを確認する。	標準	訪問診療	7	20	3	4
診療所	35050	⑤ 訪問看護ステーションを指定し、担当訪問看護師とターミナルケアの計画の設定と申し合わせを行う。	標準	訪問診療	7	20	2.5	4
診療所	35060	⑥ 中心静脈栄養(IVH)を含めた在宅医療に必要な薬剤の処方を書く。	標準	訪問診療	8	10	2	4
診療所	35070	⑦ 訪問診療を行い、患者の心を癒す態度で接し、家族に経過説明をその都度行う。	標準	訪問診療	8	17.5	2	5
診療所	35080	⑧ 状態が悪化して、平日午後患者自宅にて看取りを行う。	標準	訪問診療	8	35	4	5
診療所	35090	⑨ 死後の処置を看護師に指示し、医師が共に行う。	標準	訪問診療	8	30	3	5

部門	管理番号	設問	重症分類	技術分類	回答者数	必要時間	総合負荷	責任卒年
診療所	35091	⑩ 死亡診断書を記載する。	標準	訪問診療	8	10	2	4
		55歳の男性、筋萎縮性側索硬化症(ALS)にて人工呼吸器を装着中。月二回の在宅訪問診療を計画的に行っている。						
診療所	35120	② この患者を訪問し、会話エイド付きのコンピューターを介して問診し、診察する。	標準	訪問診療	7	22.5	3	4
診療所	35130	③ 気管カニューレの交換を行い、人工呼吸器の設定を確認する。	標準	訪問診療	5	15	2.5	4
診療所	35140	④ 膀胱洗浄、膀胱バルーンカテーテル交換を行う。	標準	訪問診療	6	17.5	2	4
診療所	35150	⑤ 胃瘻部の状態、経管栄養の注入量、注入速度等を確認する。	標準	訪問診療	6	10	2	4
診療所	35160	⑥ 家族に経過説明を行う。	標準	訪問診療	6	10	2	4
症例		92歳女性、血管性痴呆とアルツハイマー型老年痴呆の合併例。病状は比較的落ち着いており、ヘルパーの介護と家族介護で特にトラブルはない。月に二回の定期的訪問診療を行っている。						
診療所	35220	② 一般内科的な診療をし、飲水、食事、日常生活の注意などの指導を行う。	標準	訪問診療	8	15	2	4
診療所	35230	③ 定期的に医師が採血を行う。	標準	訪問診療	8	7.5	1.25	3
腎	11020	上記患者の「問診・診察」を行った(検査の実施は含まず、検査オーダーは含む)。なお来院時体温は37.2℃だった。	標準	外来診療	15	7	1	3
腎	11030	同日、上記患者に付いて「普通感冒であるという診断・治療方針決定」を行った(カルテ記録、指示出しを含む)	標準	外来診療	15	5	1	3
腎	11040	同日、上記患者に「総合感冒薬等の処方」を行った(調剤・製剤は含まず)。必要な副作用説明を含む。	標準	外来診療	15	4	1	3
定義		37歳男性、気管支喘息にて他院を通院加療中であったが、2日前から咳、痰、喘息が増悪したため初診来院した。なおチアノーゼは認めない。						
腎	11060	上記患者について「問診・診察」を行った(検査の実施は含まず、検査オーダーは含む)。なお来院時体温は38.0℃だった。	標準	外来診療	15	10	2	3
腎	11070	同日、上記患者に対して「胸部X線単純写真の読影診断」を行った(記録を含む)。	標準	画像診断	15	5	2	3
腎	11080	同日、上記患者に対して「上気道感染症であるという診断・治療方針の決定」を行った(カルテ記録、指示出しを含む)	標準	外来診療	15	5	2	3
腎	11090	同日、上記患者に対して「抗生物質の処方」を行った(調剤・製剤は含まず)	標準	外来診療	15	3	2	3
		62歳男性、突然に呼吸困難を呈したため外来診療時間帯に初診来院、チアノーゼを認めるために優先診療とした。						
腎	11110	上記患者の「問診・診察」を行った(検査の実施は含まず、検査オーダーは含む)。	緊急	外来診療	15	8	3	4
腎	11120	同日、上記患者に対して「心電図検査」を医師自ら行った(そばにいる協力スタッフへの指示を含む)。	緊急	生体検査	14	5	2.5	3
腎	11130	同日、上記患者に対して「心電図検査の判定」を行った(記録を含む)。	緊急	生体検査	15	3	3	4
腎	11140	同日、上記患者に対して「急性心筋梗塞症であるという診断・治療方針の決定」を行い、次の担当医に引き継いだ(指示出しやその後に行うカルテ記録を含む)。	緊急	外来診療	15	10	5	5
定義		61歳男性、4日前より排便なく、昨日より左下腹部痛、嘔吐が出現したため初診来院した。						
腎	11160	上記患者の「問診・診察」を行った(検査の実施は含まず、検査オーダーは含む)。	標準	外来診療	15	10	3	4
腎	11170	同日、上記患者に対して「腹部単純X線写真の読影診断」を行った(記録を含む)。	標準	画像診断	15	5	3	4

部門	管理番号	設問	重症分類	技術分類	回答者数	必要時間	総合負荷	責任卒年
腎	11180	同日、上記患者に対して「腸閉塞症で入院が必要であるという診断・治療方針の決定と説明」を行い、次の担当医に引き継いだ(カルテ記録、指示出しを含む)。	標準	外来診療	15	10	5	4
腎	71010	上記患者の問診・診察を施行	標準	外来診療	15	15	3	5
腎	71020	腹部超音波エコー・心電図・血液化学・検尿・24時間尿検査をオーダーした。	標準	外来診療	15	7	3	5
腎	71030	慢性腎不全、血清アルブミン2.5g/dl、血清クレアチニン2.0mg/dl、クレアチニンクリアランス40ml/分、尿たんぱく排泄量3.6g/日 慢性糸球体腎炎によるネフローゼ、慢性腎不全と診断 腎生検は施行せず、低たんぱく食療法で外来通院が必要と患者に説明し、了解を得た	標準	外来診療	15	15	5	6
腎	71040	栄養士による栄養指導を指示し、患者に同指導の必要性を説明。	標準	外来診療	15	10	4	6
腎	71050	別日に家族も同席で、たんぱく制限不十分(0.95kg/標準体重kgの摂取量)で、教育入院の必要性を説明、了解を得る	標準	説明同意	15	15	5	6
腎	71060	外来再診にて低たんぱく食実行不十分(0.90g/標準体重kg)のため再度栄養指導を指示した。	標準	外来診療	15	9	5	6
腎	71070	同時にARB(アンジオテンシン受容体拮抗薬)を処方し、副作用等の説明を行った。	標準	外来診療	15	5	5	6
定義		腎機能がさらに低下し、血清クレアチニン7.5mg/dl、クレアチニンクリアランス5ml/分に低下						
腎	71080	入院して左前腕に内シャントを造設、手術室における医師の拘束時間等で聞きます	標準	処置手術	14	90	13.5	9
症例		19歳男性、全身浮腫、体重増加で紹介来院						
腎	72110	上記患者について「問診・診察」を行った	標準	外来診療	8	10	3	3
腎	72120	原発性、二次性ネフローゼ症候群の鑑別に必要な検査、画像検査をオーダーした。	標準	外来診療	8	10	4.5	5
腎	72130	胸部レントゲン写真の読影しカルテに記した。	標準	画像診断	8	5	3	5
腎	72140	後日家族を呼んで「経皮的腎生検」と危険を説明し、同意書を得た。	標準	説明同意	8	30	5	7
腎	72150	後日入院して、「経皮的腎生検」を病棟処置室で医師自ら行った。時間とは医師の付いている時間を聞いています。	標準	生体検査	7	60	10	8
腎	72160	腎生検標本の光学的及び蛍光抗体法検査の組織学的判定を医師自ら行った。	標準	生体検査	8	45	8.5	9
腎	72170	後日家族を呼んで、上記患者に対して「ネフローゼ症候群であるという診断・治療方針決定」を行い、低アルブミン血症に対する血漿置換療法との文書同意をとった。(カルテ記録を含む)	標準	説明同意	8	30	6.5	7.5
腎	72180	退院時上記患者に対し、紹介医での継続管理についてデータをつけて逆紹介した	標準		8	25	4.5	5.5
症例		39歳女性。著明な浮腫、関節痛にて他院から紹介、時間内に入院						
腎	72210	上記患者の問診・診察を施行	標準	外来診療	8	25	3	3
腎	72220	病態を把握するために血液検査、血液生化学検査、免疫学的検査、腎臓検査および腹部超音波エコー・胸部X線写真・心電図・検尿・24時間尿検査をオーダーした。	標準	外来診療	8	15	4	3.5
腎	72230	上記、・胸部X線写真画像について読影した。(カルテ記録、指示出しを含む)	標準	画像診断	8	10	4	4.5
腎	72250	後日夫を呼んで、腎生検結果と治療方針(ステロイドパルス療法を含むステロイド療法、シクロフォスファミドパルス療法および血液浄化療法)および食事療法(減塩、低蛋白食、水分制限)について患者と家族に説明と血漿交換療法の文書同意をとった。(カルテ記録、指示出しを含む)	標準	外来診療	8	60	7	8.5
腎	72260	上記患者に対し、治療効果を判定し「ステロイド剤および利尿薬」の処方を行った。(カルテ記録、指示出しを含む)	標準	外来診療	8	15	5	6
腎	72270	胸部X線写真で胸水貯留と心拡大があるため心エコーを医師自ら行った。(カルテ記録、指示出しを含む)	標準	生体検査	8	30	5	6.5

部門	管理番号	設問	重症分類	技術分類	回答者数	必要時間	総合負荷	責任卒年
腎	72280	上記、心エコーについて撮影した。（カルテ記載、指示だしを含む）	標準	生体検査	8	12.5	5	5.5
腎	72290	突然の発病と子供の世話について不安が強いためカウンセリングを医師自ら行った	標準		8	60	5.5	8
症例		55歳の男性。10年前より2型糖尿病にて経口糖尿病薬を服用中であり、近医通院中であった。1ヶ月前より下肢に浮腫を認めるようになり、紹介状を持って初診受診した。体重がこの1か月で5kg増加した。						
腎	72310	上記患者の「問診・診察」を行った（検査の実施は含まず、検査オーダーを含む）	標準	外来診療	8	15	3	3.5
腎	72320	同日、上記患者に対して「眼底検査」を医師自ら行った（協力スタッフへの指示を含む）	標準	生体検査	7	15	5	5
腎	72330	同日、上記患者に対して「眼底検査の判定」を行った（記録を含む）	標準	生体検査	7	5	5	5
腎	72340	同日、上記患者の「糖尿病性腎症によるネフローゼ症候群の疑いであるという診断・治療方針決定」を行ない患者にも説明した（カルテ記載、指示だしを行った）。	標準	外来診療	8	17.5	5	6.5
腎	72350	同日、上記患者に対して利尿薬・降圧剤・血糖降下剤の説明注意をおこない、処方を行った（調剤・製剤は含まず）。	標準	外来診療	8	10	4.5	7
腎	72360	同日診察後、上記患者の通院中の医院に対して、「患者の現在の状態」を文書で送った（記入作業を含む）	標準		8	20	5	5
腎	72370	別日、上記患者に対して日常生活における注意事項などについて書面を呼んで「生活・食事指導」を行った。	標準	外来診療	8	30	5	6.5
腎	72380	2週間後、上記患者に対して、患者状態の観察とルーチン的な検査データを確認し、治療効果判定を行った。	標準	生体検査	8	22.5	5	6.5
症例		59歳の男性。19年前に糖尿病、3年前に蛋白尿、高血圧を指摘されるも放置。3日前より乏尿、顔面及び下肢の浮腫、咳が出現し平日時間内に受診、即日入院となった。						
腎	72410	上記患者の「問診・診察」を行った（同時に血液・尿などの検体検査をオーダー）。	標準	外来診療	8	25	3	4
腎	72420	入院後、上記患者に対して病棟にて「心電図検査」を自ら行った。	標準	生体検査	8	10	2	2.5
腎	72430	心電図検査の判定を行った（カルテ記載を含む）。	標準	生体検査	8	5	3	3
腎	72440	緊急の【胸部X線単純写真の読影診断】（胸水貯留）を行った。	標準	画像診断	8	5	3	3
腎	72450	上記患者に対して「糖尿病性腎症による腎機能低下を伴ったネフローゼ症候群」と診断、治療方針を決定し、インスリン療法必要性を含めて患者に説明した。	標準	入院診療	8	30	6	6.5
腎	72460	アルブミン製剤の必要性を説明して、文書同意をとった。	標準	説明同意	8	20	5	5
腎	72470	上記患者に対してアルブミン製剤、ループ利尿薬などの静脈内注射を自ら行った。	標準	処置手術	8	15	3.5	3
腎	72480	上記患者に対してループ利尿薬、カルシウム拮抗薬を処方した。	標準	外来診療	8	5	3	3
腎	72490	後日上記患者に対して自己血糖測定教育・指導を医師自ら行った。	標準	入院診療	8	30	4.5	6.5
腎	72491	低蛋白食・カリウム制限の食事指導などの生活指導を医師自ら行った。	標準	入院診療	8	30	5	6.5
症例		近くの医師に腎臓機能がかなり低下しているため、大きな病院の腎臓専門医を受診を勧められて受診。降圧剤服用中ながら高血圧(170/95 mmHg)あり、顔面は軽度浮腫状で顔色も貧血様である。						
腎	73110	この患者に対し外来で簡便に行なえる検査を計画オーダーし、患者に説明、カルテ記載した。	標準	外来診療	7	15	6	8
腎	73120	別日に血清クレアチニン値が4.5 mg/dl、Hb値8.5 d/dl、Ht値25.6%、残存腎機能は13-15%と想定された。食事療法の指示、エリスロポエチン注射処方を行った。	標準	外来診療	7	10	7	8
腎	73130	別日に家族も同席させ、血清クレアチニン濃度が7.8 mg/dlに上昇ゆえ近い将来に透析療法が避けられないと説明。血液透析、腹膜透析、腎移植の詳細を説明した。	標準	説明同意	7	20	10	8

部門	管理番号	設問	量産分類	技術分類	回答者数	必要時間	総合負荷	責任卒年
腎	73140	別日、血液透析を受けたいとの希望のため手術の詳細について説明を行ない、内シャント作成のための承諾書を得た。	標準	説明同意	7	15	10	8
		血清クレアチニン値は10 mg/dlを超え、食欲も低下し、全身の倦怠感も加わって尿毒症症状の出現と判断された。すでに内シャントも作成されており十分使用できる状態であった。						
腎	73160	血液透析に導入すべきと判断されたため、入院後別日に家族を呼んで血液透析の説明と同意を求めた。	標準	説明同意	7	20	10	8
腎	73170	別日に血液透析初回導入を2-3時間行った。その間で患者1人当りの、透析開始・回診・終了・カルテ記載に要する医師拘束時間を質問します。	標準	処置手術	7	45	12	8
症例		64歳男性、10年前から血液透析をサテライトにて施行。1年前から腹痛感があり、定期的な胸部腹部エコー検査で腹水の貯留を指摘されていた。最近、がやや増悪する傾向にあるため、紹介来院した。						
腎	73210	上記患者の「問診・診察」を行った(検査の実施は含まず、検査オーダーを含む)。	標準	外来診療	7	15	6	8
腎	73220	当日、上記患者の「腹部超音波検査」を医師自ら行った	標準	生体検査	7	15	5	6
腎	73230	同日、上記患者に対して「腹部超音波検査の判定」を行い、報告書を作成した。	標準	生体検査	7	10	5	8
腎	73240	行った前回来院時に腹水貯留が確認できていたので、後日外来で、原因検索のため「腹水穿刺」を医師自ら行った(協力スタッフへの指示含む)。	標準	処置手術	7	20	10	6
腎	73250	上記患者の腹水は血性であり、細胞診にて異型細胞との報告を受けたため、「鑑別診断、治療方針決定」のため更なる検査が必要と考え、患者に説明、指示出し、カルテ記録を行った。	標準	外来診療	7	15	10	8
腎	73260	後日、患者と家族を別室にて、前回の超音波検査で肝に占拠性病変の存在が疑われ、入院による精査の必要性を訴えたが、患者は強く拒んだ。このため外来にて精査することにした。	標準	説明同意	7	30	10	8
腎	73270	本患者は、「腹部膨満感の原因について検討してほしい」という開業医の手紙を持参して来院していたので、「紹介返信」文書作成のため、データ調査・記入を行った。	標準		7	15	6	8
腎	73280	後日家族と共に、本患者の腹水の原因として、肝硬変によるものと判断することができた。このため腹水濾過静脈濾過法のみは当院で実施することにし、同意書を作成した。	標準	説明同意	7	20	10	8
腎	73290	腹水濾過静脈濾過に於ける医師拘束時間で質問します。腹水血液回路の組み立ては臨床工学士によったが、腹水穿刺、採取、静脈濾過は処置室で医師自ら行った。本療法実施中のVital signの監視は看護師。監視指示・処理腹水量・処理速度の決定は医師が行った。	標準	処置手術	7	60	15	10
腎	73291	別日の慢性血液透析(約4時間)の間で患者1人当りの、透析開始・回診・終了・カルテ記載に要する医師拘束時間を質問します。	標準	処置手術	7	30	10	8